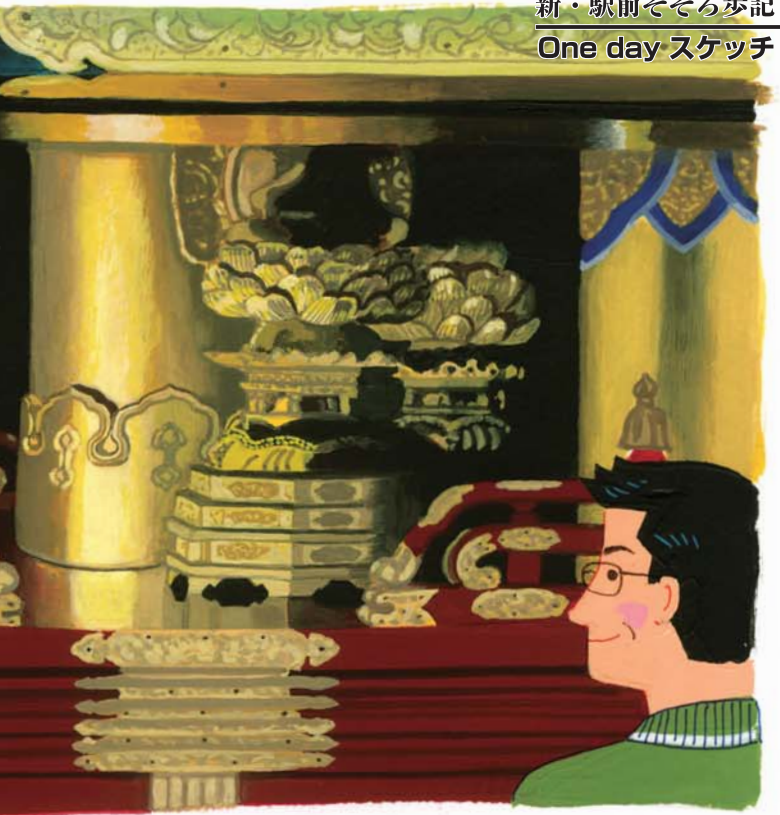


日光東照宮・ 五重塔に秘められた 古来の技が 東京スカイツリーに

つながる



こんにちは、あずまの母の道子です。今日は日光へ夫婦で行ってきました。ここは日光東照宮の五重塔。金箔で覆われた心柱が特別公開されています。東京スカイツリーには、心柱を参考にした制振システムが導入されているそうでしょ。(MAPのA)

今回の登場人物



業平道子
あずまの母親。小学生向けの英会話教室を経営する。趣味は園芸



業平鉄男
あずまの父親。食品会社勤務。歴史とジャズをこよなく愛するサラリーマン。



特急スペーシアに乗って、北千住から約1時間40分で「東武日光駅」に到着。山小屋をイメージした駅舎が印象的です。外国人観光客の姿も多く、まさに国際的観光地への玄関口です。

東武日光

(とうぶにっこう)

東京スカイツリー®と日光の間を特急スペーシアが結んでいます。今日の日本の最先端技術を駆使して完成した、世界一の高さを誇る自立式電波塔「東京スカイツリー」。片や、開山以来1200年余の歴史を重ねる世界遺産の日光。まったく対極にある観光スポットですが、実は「温故知新」というキーワードで結ばれているのです。ヒントは「五重塔」にあり。

その謎を解きに、いざ緑濃き日光へ。



展望見学通路から外側を眺めれば、そこには今まで見たことのない光景が。見下ろすと、江戸時代を代表する名園である「逍遙園」が見えます。さらに日光山内を上から眺望するという、これまた貴重な体験ができました。(MAPの②)



のんびり歩いて日光山内へ。ここは世界遺産のひとつ「日光山輪王寺」。本堂である三仏堂は平成の大修理中。伽藍を素屋根が覆い、解体修理の模様を地上26mの展望見学通路から眺めると、貴重な体験ができました。(MAPの③)



下野国一之宮で、男体山を主神体と仰ぐ「日光二荒山神社」です。今から1200年以上前の奈良時代に、勝道上人によって創建されました。神域は3400㎡に及び、これは伊勢神宮に次ぐ広さだとか。(MAPの④)



徳川三代将軍家光公を祀る「輪王寺大猷院」です。大小6つの門、境内に林立する諸大名から寄進された315基もの灯笼も印象的でした。家光公の御生母「お江の方」の御位牌を特別公開しています。(MAPの⑤)

五重塔の心柱 ただいま特別公開中

東武日光駅から前町の通りをそぞろ歩いて日光山内を目指します。世界遺産登録を機に、この通りは歩道の拡幅や家並みの統一などの整備が進められています。名物の日光ゆばを提供する店が目につくのはいまも昔も変わりません。最近では夏場に日光の天然水を使ったかき氷も人気です。

ほどなく水清らかな大谷川に架かる朱塗りの木橋が見えてきました。日光橋を渡れば、深い杉木立の日光山内。日光東照宮、日光二荒山神社、日光山輪王寺の、いわゆる二社一寺が世界遺産・日光の中心です。今回の旅のメインは、東照宮の境内に建つ五重塔。この塔の内部を貫く「心柱」は吊り下げ式になっていて、地盤より10センチほど浮いています。この仕組みは古来の優れた免震技術ですが、実は今春オープンした東京スカイツリー®には、この五重塔の心柱を参考にした「心柱制振」というシステムが導入されているのです。

そこで、東京スカイツリーの開業に合わせて、また東照宮400年祭(平成27年)のPR企画として五重塔の内部を来年3月まで特別公開中。開かれた扉の奥に見える伝説の心柱は、外からの光を受けて神秘的な黄金色に輝いています。ちなみに、この五重塔が建つ山内の標高は630〜640m。つまり東京スカイツリーとほぼ同じ高さだという点も、何か不思議な縁を感じます。

期間限定の見どころをもうひとつ紹介。それは輪王寺の大本堂——三仏堂です。日光山でいちばん大きな建物である三仏堂は現在、平成の大修理中。その様子を地上26mの高さから見学できるのです。



日光の夏の楽しみは、なんといっても「天然氷のかき氷」。日光の湧き水をじっくりと凍らせて作った天然氷を使ったもの。おいしかったですよ！



「日光東照宮」の一ノ鳥居です。国宝の唐門や本殿など5棟6件で平成の大修理が行われていました。今日は剣道大会も開催されるそうですよ。(MAPのE)



以前、娘のおすまと行った霧降高原にある「グラススタジオ ポンテム」。今回も吹きガラス体験をしてきました。二人でグラス作りに挑戦しました。お土産に風鈴や、ガラスで加工した可愛いブローチなどを買いました。(MAPのG)



「神橋のそばにある」小杉放庵記念日光美術館です。絵の展示だけではなく、さまざまなイベントも盛りだくさん。今回は音楽朗読劇(4日)と日光出前寄席(25日)を開催。館外にあった扉のアートもユニークでした。(MAPのE)

日光の天空散歩と 東京の天望回廊

約十年にわたる解体修理の間、お堂全体を素屋根がすっぽり包んでいます。その素屋根の上部(7階)に展望見学通路を開設。ここから内部のお堂の解体の様子を見下ろしたり、外側の窓からは日光山内を一望できるのです。その名も「地上26mの天空散歩」。素屋根の1階には「標高634m」と表示されています。そう、東京スカイツリーの高さ。つまり三仏堂の「天空散歩」は、東京スカイツリーの「天望回廊」に重なるのです。

徳川三代將軍家光公の墓所・輪王寺大猷院もまた日光山内の重要な見どころのひとつ。家康公を祀る絢爛豪華な東照宮とは異なり、大猷院の建物は金と黒を基調にした重厚な造りです。また、昨年大河ドラマ『江〜姫たちの戦国〜』を記念して、家光公の御生母・お江の方の御位牌が公開されていることでも話題になっています。

趣を変えて、ほっとリラックスするスポットをご紹介します。大谷川を見下ろす瀟洒な建物は、小杉放庵記念日光美術館。東京大学安田講堂の壁画で知られる日光出身の画家・小杉放庵とその周辺の画家、また近代の日光の文化を紹介する美術館です。建物の一角には喫茶室を併設。日光の美味しい水で淹れる香り豊かなコーヒーが自慢です。

もう一軒のおすすめスポットは、ガラス工房「グラススタジオ ポンテム」。ここでは気軽に吹きガラス体験ができ、スタッフの丁寧なアシストによって、素敵なマイグラスを作ることができます。世界にふたつとない自作のグラス——これもかけがえない日光の思い出になります。



東武日光データファイル

〈日光東照宮 五重塔初重内部特別公開〉・・・
●期間=平成25年3月31日(日)まで ●公開時間=8:00~17:00(11月~3月は~16:00) ●観覧料=大人(中学生以上)300円/小学生200円 ☎0288-54-0560
〈輪王寺 地上26メートルの天空散歩〉・・・
●期間=平成32年度まで(予定) ●公開時間=8:00~16:00(2/3の節分会、4/1・2の強飯式は休み) ●料金=大人400円/小・中学生200円 ☎0288-53-4646
〈拝観時間(二社一寺共通)〉・・・8:00~17:00(11月~3月は~16:00) *輪王寺の宝物殿・逍遙園は8/9(木)・10/11(木)・12/13(木)・14(金)休館
〈世界遺産めぐり手形(循環バス)〉・・・運賃=500円(小児半額) ●ルート=JR日光

駅→東武日光駅→西参道→蓮華石間が1日に何回でも乗降自由 ●発売場所=東武日光駅 ツーリストセンター(9:00~17:00)/JR日光駅みどりの窓口(6:00~20:00) ☎東武バス日光 日光営業所 ☎0288-54-1138
〈二社一寺共通拝観券(2日間有効)〉・・・●料金=一般1000円/高校生600円/小・中学生400円 ●共通拝観券に含まれないもの=日光東照宮奥社、五重塔初重内部特別公開/輪王寺宝物殿・逍遙園、地上26メートルの天空散歩/二荒山神社神苑 ●発売場所(3か所)=東照宮入場口向かって右手/輪王寺第1駐車場/東武観光センター(西参道)隣 ☎0288-54-2007
〈小杉放庵記念日光美術館〉・・・●交通=東武日光駅から清滝・細尾・中禅寺・湯元、西参道方面行きバスで「神橋」下車、徒歩3分

●閉館時間=9:30~17:00(入館は16:30まで) ●休館日=月曜 ●入館料=一般700円/大学生500円/高校生以下無料 ●イベント=音楽朗読劇 童話『猫は生きている』 ☎8月4日(土) 18:30 ☎1000円/日光出前寄席 四 ☎8月25日(土) 18:30 ☎2000円 ☎0288-50-1200
〈ガラススタジオ ポンテ(吹きガラス体験)〉・・・●交通=東武日光駅からタクシー7分(体験教室予約の場合は送迎) ●体験時間=10:00~17:30(受付は9:45~17:00) ●定休日=火曜・第4水曜(お盆・祝日・連休中は営業) ●料金=タンブラー(透明)3675円、ぐいのみ(透明)3150円など ほかにサンドブラスト体験、アクセサリー作り体験あり ☎0288-54-1688